

大阪府立茨田高等学校 令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析

- * 昨年との数値差では、生徒のマイナス率が比較的高く、保護者のマイナス率も高く、教員の方はマイナス率が低い。各診断において、回答数が100を切っているため、数値の比較では実態が表れなくなっている様である。

生徒対象の結果について

- * 生徒の部活動の項目は、部活加入率の実態とは違った数値が出ている。
- * 授業アンケートの数値は高いにも関わらず、項目2〔授業はわかりやすく楽しい。〕では、かなり数値が下がっている。現状分析しかねる結果となっている。
- * 行事についての項目では数値が大きく下がっているが、昨年の3年生による盛り上げが圧倒的だったことも一つの要因と感じている。ただ、3学年揃っていないことが最大要因になっていると認識している。

保護者対象の結果について

- * 学校行事への参加についての項目では数値がかなり高くなっている。
- * 設問8〔学校は「いじめ」や「問題事象」に対して適切に指導している。〕については、数値が下がっている。保護者への連絡等を密にとってはいるが、まだ足りない部分があるということだと考えている。教職員にはさらに密な連携ができるよう取り組んでいく。
- * 生徒への対応や指導についてより保護者の理解を得られるようにしたい。
- * 個別最適な対応・指導について教職員研修を増やして取り組んでいる。

教員対象の結果について

- * 項目1〔本校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。〕については、教員数が少ない中で職員室等の集約はしているが、より必要性が高まってきているため、教職員の意識が上がっていると認識している。
- * 項目5〔本校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。〕については、生徒対応を丁寧に行っているのが結果に現れていると感じている。

<校長総括>

生徒・保護者の評価と教員の評価に乖離が起こっているのではないかと感じている。大きな課題だと感じている。

教員は一生懸命やっているが、それが伝わっていない。もしくは、ニーズのずれがあるのかもしれない。生徒・保護者のニーズに応えられていない部分には真摯に向き合っていきたい。